

5月10日 全校朝会でのお話

江南北小学校の皆さん、おはようございます。

今日は校長先生から「思う」、「考える」そして「行動する」についてお話します。

皆さんは授業中、先生から、思いや考えを書きましょうとか、話しましょうと言われることがあるでしょう。

そうやって先生たちはあえて「思う」と「考える」を区別して皆さんに示しています。「思う」と「考える」は似ているけれど、違うのです。

皆さんは「思う」というとき、どこを使いますか。

そうです。心です。

ふとある思いが心に浮かぶ、感じる、これが「思う」ということです。

では、「考える」はどこを使いますか。

そうです。頭です。

心に浮かんだり感じたりしたことを

「何を言おうとしているのかな」「なぜかな」「どうしたらいいかな」「これからどうしようかな」と頭の中を巡らせることを「考える」と言います。

ですから人のお話を聞いたり、何かを見たり、知ったりするときにまず使うのは心です。

そのためには、心を研ぎ澄ませておかなければなりません。

そうでないと、感じられないからです。

澄んだ心で感じた「思い」を頭の中をぐるぐる巡らせて、自分の「考え」にしていくのです。

考えは一つではありません。

いろいろな角度から考えると、たくさん考えは湧き出てきます。

そのたくさんの中から、絞ることが必要なときもあります。

絞っていくときには、何を大事にするか「ポイント」をもつとよいでしょう。

そのポイントに照らして、いくつかの考えをふるいにかけて、
自分なりの考えとしていきます。

そして考えたことは行動になります。

皆さんに、宮澤章二さんという詩人の『行為の意味』という作品の一部を紹介します。

「心」は誰にも見えないけれど「心遣い」は見える。

「思い」は誰にも見えないけれど「思いやり」は見える。

心に浮かんだことや思いを頭の中を巡らせて「考え」にすることで、
「心遣い」や「思いやり」という人から見えるもの、行為、行動になっていきます。

「思い、考え、行動する」

皆さん、これが「知恵がつく」ということです。

「思い、考え、行動する」

これが皆さんが「学ぶ」ことの成果にほかなりません。

「思い、考え、行動する」

これを繰り返して皆さんは優しく、賢く、逞しくなります。

今月の目標は「無言ひざつき清掃で学校をきれいにしよう」です。

掃除の時間にも、「思い、考え、行動する」

ぜひ実行してみてください。